ウクライナ海軍の航空戦力

Report : Stephan de Bruijn & Marco Dijkshoorn

黒海に突き出たクリミア半島はウクライナの南方に位置しているが、1991年のソビエト連邦崩壊以前、ここはソビエトの一部で、黒海を望むヨーロッパの最東部と言われていた。ウクライナ独立後もロシアは黒海艦隊を維持し、セバストポリに司令部をかまえてウクライナ国内に部隊を駐留させている。そんなウクライナでは、同国海軍の所属機を含め、ロシア海軍黒海艦隊の航空部隊など、興味深い航空機が訓練、任務を実施している。なかでもユニークなのはベリエフBe-12飛行艇。"チャイカ"（カモメ）のニックネームにふさわしくガルウイングを装備した双発の飛行艇は、いまもウクライナ、ロシア両海軍で現役にある。ここではウクライナ国内で運用される、両海軍の航空機を紹介することにしたい。

【上２枚】 ウクライナ海軍（正式名VMSU：Viys'kovo-Mors'ki Syly Ukrayiny）の航空部隊SABr（Saks'ka Aviatsiya Brigada）の基地はセバストポリから北に約50kmのサキ・ノボフェドリフカ１ヵ所だけで、同基地内に固定翼飛行隊と回転翼飛行隊の２ユニットが配備され、約30機の航空機を運用している。上２枚は固定翼飛行隊が運用するBe-12で、主任務は対潜と哨戒。

➡ 固定翼飛行隊でおもに輸送任務に使用されるAn-26は、ベージュ系のBe-12に対し、ウクライナ軍の標準塗装である青系２色迷彩が施されている。

➡ 訓練、輸送任務にいまも現役で投入されているAn-2。同機はウクライナ製のAn-2Tで、同国で運用されている最後の1機だ。ウクライナ海軍では限られた軍事予算から航空機の維持にもパイロットの養成にも苦労しており、SABrの保有機のうち実際に飛行可能なのはほぼ半数、またパイロットの数、飛行訓練時間も圧倒的に不足している。そうした理由から現在組織の建て直しのための予算獲得を目論んでいるが、現実はかなり厳しい。

【下3枚】 回転翼飛行隊では、Ka-27（下）、Ka-29（右上）、Mi-8、Mi-14（右下）が運用されており、その任務は空輸、SAR（捜索救難）。Mi-14については5機が導入されているが、現在の可動機数は不明。なお、SABrの国籍標識は空軍と同じ黄色（外枠）と水色（内側）の円の中に錨を配したもの。

【左2枚】 いまも黒海を重要な戦略拠点と位置づけ、同海域で活動する艦隊を維持し続けるロシア海軍は、黒海に加え北部アゾフ海もその守備範囲としており、ウクライナ政府と賃貸契約を結んだうえでVMSU司令部と同じセバストポリに艦隊司令部を置き、実動航空部隊をカチャ（7057AB）とクバルデスコイェ（7058AB）の2基地に駐留させている。カチャにはBe-12（上）のほかにAn-26が配備されており、両機は対潜任務・哨戒任務と空輸任務に従事しているが、一方のクバルデスコイェには戦術機Su-24（下）が配備され、対艦攻撃を主任務として活動しており、さらに戦術偵察任務を担当するSu-24MRも数機が配置されている。